

## 2022年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>○「考える子」の育成のため、自立的な学びと協働的な学びを教科横断的に設定して、主体的・対話的で深い学びを実現する教育活動を推進する。 ※「考える子」・・・すすんで学び、考えながら課題に取り組む子「問題解決力」</p> <p>○基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力とともに、学びに向かう力、人間性を育てていく。</p>

授業改善の重点
<p>①児童の発言を基に作り上げる授業づくり(発言の取り上げ方、様々な共有の方法、広げ方や深め方) ②構造的な板書による学習理解の支援(1時間の授業の流れがわかる、要点が捉えやすい) ③児童がお互いの発言を認め合うことのできる学級環境づくり。(授業の活性化、人権意識の育成(いじめのない学級・学校を目指して)) ④効果的な場面におけるICT機器とアプリの積極的活用→そのために必要な研修・研究の推進</p>

各教科の指導の重点	<b>国語科</b>	<b>音楽科</b>	<b>総合的な学習の時間の指導の重点</b>	<b>特別の教科 道徳の指導の重点</b>		
	<p>○児童が主体となって学習をすすめることができるように、単元の指導計画を工夫する。 ○多様な意見の共通点を意識しながら対話活動を行うことで考えを広げることができるようにする。 ○授業のまとめで振り返りを行ったり活用的な課題に取り組ませたりすることで自分の考えの深まりを実感できるようにする。 ○発達段階に応じた話型を指導し、互いの考えを伝え合うことができるようにする。</p>	<p>○言語活動や協働的な学習の充実を目指し、設定する課題を工夫し、対話によって自分の考えや音楽的な見方・考え方を広げたり深めたりする学習活動を積極的に取り入れる。 ○発表する活動では、児童が思いをもち、それらを言葉と音楽で表現することができるよう指導する。また、演奏を聴き合うことを通して、互いを認め合う心や自尊心を育む。 ○学年の実態に応じてICT機器を活用した資料提示や情報共有を行い、児童が見通しをもち、進んで学習に取り組むことができるようにする。</p>	<p>○児童が探究的な見方・考え方を働かせることができるように1年を通した課題設定を行う。「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」という一連の学習過程を繰り返す発展的な学習を進める。 ○ICT機器を活用して学習を進め、「まとめ・表現」の学習段階では、プレゼンテーション資料(スライド等)の作成を行う。 ○「Google for Education」を積極的に活用し、主体的・対話的な深い学びの実現を目指す。</p>	<p>○互いの考えを認め合えるような、学級の温かい雰囲気づくりに努める。 ○構造的な板書を事前に計画し、授業に臨む。また、児童の発言を整理しながら板書し、思考を整理していく。 ○自分の考えを伝えるために、ペア、グループ、全体等、話し合いの形態を工夫する。また、ハンドサインを活用させ、一人一人が自分の考えを表現できるようにする。 ○振り返りでは、自分の考えを整理する時間をとる。</p>		
	<b>社会科</b>	<b>図工科</b>	<b>特別活動の指導の重点</b>	<b>外国語活動(3・4年)の指導の重点</b>		
	<p>○社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習問題を追究・解決する問題解決的な学習を進める。 ○考えたことや判断したことを適切に表現する力を養う。 ○自分の考えを深めたり広げたりできる交流の場をもつ。 ○資料や地図から必要な情報を読み取る力を養う。</p>	<p>○表現の活動では、造形遊びをする活動と絵や立体、工作に表す活動のそれぞれの活動を通して、思考力、判断力、表現力や技能を身に付けられるよう使う素材を工夫する。 ○一人一人が感性や想像力を働かせて、様々なことを感じ取るために、児童自身の視覚や触覚などの感覚や行為を通して、主体性をもった理解につながるよう、創作時間を十分にとる。 ○自分たちの作品や親しみのある美術作品などを見合う鑑賞活動を通して、自分の見方や感じ方を深め、思考力・判断力・表現力を高められるようにする。</p>			<p>○学級会の指導方法や、児童の取り組み方を広め充実させていく。 ○学校行事では、一人一人がめあてをもって取り組むとともに活動を振り返り、児童自身が成長を味わえるようにする。また、学級活動や児童会活動を生かす。</p>	<p>○児童が外国語で表現することの楽しさを実感して、すすんでコミュニケーションを図ろうとするために、児童の興味関心や発達段階に応じた言語材料を取り上げたり、言語活動を行ったりする。 ○グローバルな見方・考え方ができるようにするために、自国と比べながら異文化を取り上げていく。</p>
	<b>算数科</b>	<b>家庭科</b>				
	<p>○多様な求め方を考え、共通点や相違点を比較することで考えを広げることができるようにする。 ○学校でノート指導の流れを統一し、児童自ら学習を振り返ることができるようにする。 ○理解を深めるために視覚的に捉えられるような教材や教具を工夫する。 ○ペーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。 ○デジタル教科書を活用し、視覚的、体験的に学習を深めていくことができるようにする。</p>	<p>○日常生活の中から問題を見い出して課題を設定し、主体的・対話的な活動を通して様々な解決方法を考え実践することで、深い学びに結び付くようにする。 ○家庭生活を大切にすることを育み、家庭や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 ○お互いの作品を見合い、良さを見つけていくことで、認め合い高め合える環境を作れるように工夫する。</p>				
	<b>理科</b>	<b>体育科</b>				
	<p>○自然の事物・現象に親しむ活動を通して、児童が自ら問題を見い出し、主体的に問題解決しようとする事ができるような発問、展開の工夫をする。 ○各学年における問題解決の力の重点(3年:問題の見出し、4年:予想・仮説を立てる、5年:解決方法の発想、6年:妥当な考え方を意識した単元の計画を立てる。 ○理科の見方・考え方を養うための授業展開の工夫を行う。</p>	<p>○授業の中で、個人の思考を全体で共有する時間、学習を振り返る時間を作り、自分自身の運動の仕方を見つめ直し、その後の運動に生かせるようにする。 ○一人一人がめあてをもって運動に取り組めるように、学習カードやクロムブック等を利用し意欲を高める。 ○めあての達成に向けて、運動の仕方や場、練習方法を工夫する。</p>				
<b>生活科</b>	<b>外国語科(5・6年生)</b>					
<p>○具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつ。 ○自分自身や生活について考えさせるとともに、その過程において生活上に必要な習慣や技能を身に付け、生活の基礎を養う。</p>	<p>○日本語と外国語の違いに気付き、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 ○身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、話順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</p>					

本校の授業改善に向けて	<p><b>見通しをもたせる導入</b></p> <p>○どの教科においても、授業のはじめに「めあて」や「かだい」として学習の見通しを示すようにする。そのために学校で共通のマグネットを用いる。 ○外国語の学習においては、はじめに学習の項目を示しておき、今の活動内容を分かるようにすることで、児童が安心して学習にとりくめるようにする。</p>	<p><b>振り返りの設定</b></p> <p>○授業ごとの振り返り時間の確保や、単元終了テスト後に振り返りを実施するようにする。 ○振り返りに対するコメント等で児童の考えを認めたり、深めたり、広げたりできるようにする。 ○振り返りで出た児童の意見や疑問を次の学習で紹介したり、学習内容のつなぎとして用いることで児童の振り返りが生きるようにする。</p>	<p><b>ICTの活用</b></p> <p>○Googleを用いた調べ学習の時間を設定し、児童の興味関心を高める機会を充実させる。 ○デジタル教科書の活用をおこない、児童への指示や資料の提示を分かりやすくする。 ○総合や外国語等でスライドを用いたプレゼン作成を行わせることで、ICTに親しませる。 ○クラスルームのコメントやフォーム、ミートを活用する際の心得を十分に児童に指導した上で効果的に活用していく。</p>
-------------	--	--	---